

私は、今回の短期留学プログラムで初めてタイに行った。目的は、日本とは違った生活環境を体験すること、プログラム内で参加するマングローブの植林プログラムでタイの森林保全活動がどのように行われているかを知ることである。今回の留学先の大学は、泰日工業大学(TNI)という大学で、主に経営学部の学生と交流した。経営学部の学生は、日本の経営について学んでいるため、日本語を勉強しており、ほぼ日本語で会話することができた。TNIの学生と1対1でペアを組み、そのペアの家にホームステイをしたり、タイを案内してもらった。

初めに、ホームステイについて紹介する。ホームステイではタイならではの生活を体験することができた。タイでは自動車がとても多く、毎日のように渋滞することが当たり前ようだ。タイの首都であるバンコクは、日本の大阪府と人口・面積が同じくらいの値なのに対して、自動車の台数は大阪府の2倍近くあるという。また、日本では道路上、歩行者が優先されるが、タイでは自動車が優先である。世界保健機関(WHO)より、自動車の交通事故による死亡者数が10万人中、日本は4.7人なのに対し、タイは36.2人と、いかにタイが車社会なのか理解できるだろう。

次にタイの食生活について紹介する。タイの料理は辛いものが多い。肉は豚肉や鶏肉を食べることが多い。また、タイは気温が高く、汗をたくさんかくので、糖分を補うためにお菓子や飲み物はとても甘く作られている。砂糖と昔から食べられているココナッツを使って作られているものがほとんどだ。日本では、食べ物を残すことはもったいないと考えるが、タイでは食べ物を残すという行為は作物が豊富であることを意味している。そのためタイでは食べ物を残すことは当たり前で、もったいないと考えることがない。

続いて、タイの宗教について紹介する。タイでは90%以上の人々が仏教徒である。観光スポットもお寺が多くあり、オレンジ色の服を着た僧侶が歩いているのを見かけた。仏教のルールとして2つを紹介する。1つは、女性は僧侶に近づかないことである。これは、女性が僧侶に触れることで、僧侶が今まで修行して積んできた徳が逃げるとされているためである。2つ目は、子供の頭に触れないことである。子供の頭には妖精が宿っているとされており、頭を撫でる際に妖精を潰してしまうと考えられている。このように仏教の国ならではの考え方やルールを知り体験することができた。

マングローブの植林プログラムでは、植林の仕方などを教わったあと、船に乗り森と海の境目まで移動した。このプログラムの目的は、猿や蟹などの動物が生息できる環境をつくるためである。移動している間にも木々から猿の群れが出てきて、餌をもらえるのを待ちながらこちらを見ていた。目的地に到着すると、海の中にマングローブの木々の苗がたくさん植えており、森に近づくにつれて木の苗が少しずつ成長していることがわかった。何年も前に、このプログラムに参加した人が植えた木々のおかげで動物たちの生息地を増やすことができているのだと体感することができ、またその一員としてこのプログラムに参加できたことを嬉しく思った。

この2週間ですべての多くのことを学んだ。留学するにあたってより多くの準備が必要であり、また新しい自分を見つけることができた。学んだことは大きく分けて2つある。1つは、コミュニケーションの大切さである。会話をする中で、共感するもの、相違点から新たな観点に気づくことができる。今回はTNIの学生が日本語を話すことができ、たくさん会話することができたが、タイ語を理解できたならよりタイの魅力に気づくことができたと思う。普段、会話を通じて意思疎通を図れることが当たり前になっていたが、留学を通じてお互いの考えを知ることができる嬉しさを感じることもできた。また、英語の勉強がいかに大切か知ることができた。海外のホテルや空港、お店などでは英語を使用することが多いため、より英語力を身に付け、外国にいても自分の思いを相手に伝えられるように勉強していきたい。

2つ目は、異文化を理解することである。今回の留学で、日本では体験できないようなこともあり戸惑いも多くあったが、他国の文化にそれぞれ素晴らしい魅力があることに気づくことができた。日本とは違った文化を受け入れることで、新しい自分を見つけることができ、自信につながった。

今回の短期留学に参加することで、留学に対する不安や心配が薄れ、より自分がこれから何をしたいのか、何を学びたいのか明確になった。日本だけにとらわれずいろいろな視点から物事を考えるいい機会になった。これから短期留学を少しずつ積みながら、自分が学んでいる分野に特化している国への長期留学を考えていきたい。これからの大学生活の計画をしっかりと立てて後悔のない大学生活を送りたいと考えている。